

## 図書委員のおすすめ

やめるときも、すゝやかたがる時も

著：窪美澄

大切な人の死が「トラウマ」で毎年12月の数日間声が出なくなる男性・亮晴と、負しい実家と経済的に支えていて恋とは無縁な女性・桜子が、お互いを知らないまま片しずの奇みぶこいく姿を描いた物語です。

1月からドラマ化もされ、今話題の作品なのでぜひ読んでみてください！

リカさん

梨木香歩

おは「あちゃんにリカちゃん人形がほしいとお願した」おにの元に届いたのは「リカ」という名前の市松人形だった。最初はお「か」いしてはいたが、リカさんと仲良くするにつれリカさんと会話ができるようになり、さらにリカさんを通じて他の人形の言葉を理解できるようになった。

おにと人形たちとの会話には、今の子どもが「失いかけている心や人とのつながり、日々の営みを重ねる大切さなど」考えさせられるお話もあります。人形との会話という現実味の無い不思議なファンタジーさあふれる状況が、少し重たいお話をとくと読みやすくおもしろくしてくれています。ぜひ読んでみてください！！

東野圭吾

名探偵の森

探偵ものから出てくるキャラクターがもしも存続させたら...?

主人公の「名探偵」天下一大五郎。この天下一が活躍する「天下一シリーズ」の脇役が大河原刑事。

大河原の役割はズバリ、「めざめざめを推理するニヒ」。

である。「名探偵」の毛利小五郎と違い、「謎解きは天才の天才」の岡部警部と違い、探偵ものには必ず存在するのである。

この役の大変げにうは、このめざめざめを推理「閉ざった」犯人を導いていくのがこの役。

あんなに面白くて、ミスリード...

×××××痛快ミステリー短編集!

東野圭吾

希望の糸

「死んだ人のことなんて知らずに、私は誰かの代りに生きてきたんじゃない。」

「加賀シリーズ」の最新作。

力石を学んだ、おにやせ、謎の謎、愛と死の謎。

その事件を調べていくうちに、不思議な関係性が見えてくる。そして、おにやせの明かされていく加賀の謎に、松宮の謎の謎の謎。

容疑者たちの視線は関係性は —

